平成31年2月20日

今治市空家等対策委員会議事録

都市建設部建築指導課

日 時 : 平成31年2月20日(水) 午後1時30分～午後3時10分

場 所 : 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3号

議 案 : 会次第のとおり

(出席委員)(五十音順)

荒木 貴大

大野 順作

岡田 有司

(高瀬進委員の代理)

越智 健二

近藤 貞明

田中 弘

日和佐 秀彦
(大西誠委員の代理)

渡辺 正隆

以上8名

平成30年度 第2回 今治市空家等対策委員会

日時 平成 31 年 2 月 20 日 (水)
午後 1時30分～

場所 本庁第2別館11階 特別会議室 3 号

会 次 第

- 1 開 会
- 2 開会挨拶
- 3 議 事
 - (1) 老朽危険空家除却事業について
 - (2) 特定空家等への措置について
 - (3) その他
- 4 閉 会

建築指導課長

ただいまより、平成 30 年度第 2 回今治市空家等対策委員会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

私は建築指導課長の村上です。よろしくお願いいたします。

委員会に入ります前に、当委員会の委員に異動がございましたので、この場をお借りしてご紹介させていただきます。

愛媛県今治警察署 生活安全調査官 大西委員さんでございますが、2月18日付の人事異動により生活安全課長となりました山下 力 様が新たに委員となっております。なお、山下委員さんは本日公務のため、欠席でございます。代理としまして、愛媛県今治警察署 生活安全課 生活安全上席係長でいらっしゃいます日和佐 秀彦 様にご出席いただいております。

また、愛媛県東予地方局今治土木事務所所長 高瀬委員さんでございますが、本日 公務のため、欠席でございます。代理としまして、愛媛県東予地方局 今治土木事務所 管理課 係長でいらっしゃいます 岡田 有司 様にご出席をいただいております。

また、藤井委員さんと服藤委員さんが、ご都合により欠席でございます。

したがって、ただいまの出席委員の数は8名でございます。当委員会施行規則にあります開催に必要な定員である過半数を満たしていることを報告させていただきます。

それでは、委員会の開催にあたりまして、渡辺会長から、ご挨拶をいただきたいと存じます。

渡辺会長

本日は、ご多忙中にもかかわらず、平成 30 年度第 2 回今治市空家等対策委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

空家対策については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」の成立から4年が経過し、少しずつですが他の自治体においても進んでいると聞いております。全国的に代執行のニュースを見かけることが多くなっている中で、県内では、四国中央市が昨年の6月と12月に所有者が不明の空家に対して略式代執行の実施のニュースがありました。

今年度末には愛媛県内の全ての市町で空家等対策計画が策定される見込みとなっているそうです。

また、先週の14日に開催されました政府の法制審議会では、懸案となっている登記制度の見直しが諮問されまして、相続登記の義務化や所有権を放棄で

きる制度の創設と所有者不明の老朽危険空家等の発生を削減するための努力もなされています。

今治市においても、昨年3月に空家等計画を策定し、老朽危険空家への対策を第一に空家対策を進めることとしております。

今回の委員会では、老朽危険空家への対策として、老朽危険空家の除却補助の検討や、法律に基づいた特定空家等の措置について検討することとなっております。

委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただき、本委員会が空家等対策の推進になるようお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

建築指導課長

ありがとうございました。それでは議事に移ります。渡辺会長に議事進行をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

渡辺会長

議事に入る前に事務局からのお願いでございますが、議事録の作成を円滑に進めるため、お手数ですけれども、発言の際はマイクの使用をお願いいたします。

それではこれより、議事に移らせていただきます。

まず、議事録署名人の指名をさせていただきます。本日は越智委員さんと近藤委員のご兩名を指名させていただきます。

次に、議事録の公開についてお諮りいたします。今治市の「附属機関等に関する基本指針」によりまして、議事録については原則公開とし、会議終了後、市のホームページに掲載することとしておりますけれども、委員の皆さんに自由に発言していただくために、発言者の氏名については公表しないこととしたいのですが、いかがでございましょうか。

(異議なし)

渡辺会長

異議なしとのご発声がございました。

それでは、議事録については、発言される方の氏名を伏せて、一部公開とさせていただきますこといたします。

それでは、議題1「老朽危険空家除却事業について」でございます。

事務局

空家対策係長をしております伊藤です。よろしくお願いいたします。

それでは議題1の老朽危険空家除却事業について説明させていただきます。

(説明：約 13 分)

渡辺会長

ありがとうございました。

前回の検討の積み残しを含めて整理していただきました。

補助対象空家の選定の方法についての説明でしたが、何かご意見、ご質問等ございますか。

A 委員

11 ページの 2 番ですが、沿道建物の使用状況ということで、その中で沿道の建物が不使用の場合に倒壊の影響が少ないと書いてあります。我々素人が考えた場合、空家になっておると、余計老朽化の速度が速くなる気がします。だから沿道の建物が不使用の場合も該当するということも必要と思いますが、この点どんなでしょうか。

事務局

沿道建物の使用状況についての意見ですけど、これについてはあくまで補助対象とする空家の順位づけでありまして、沿道の建物が全て空家の項目を入れてあるのは、災害時を想定しております。災害時に補助対象の空家を含めてその沿線に空家しかない場合は、緊急性がかなり低いのではないかと考えております。そうした中で、この項目を 2 番目にしております。

実際、事前申し込みの応募があり、調査をする中で、末端の道路に 3 軒ほど空家がある中の 1 軒で、これが災害時に倒壊しても問題がないと思われる建物がありました。このような建物については、公費である補助金を使って除却する順番は下となると考えておりますので、この項目を入れております。

B 委員

確認しますが、4 ページの事業の流れですけど、申請者は滞納していないとか制約がある中で、仮に特定空家等の所有者の方が申請をした場合にはどうなりますか。また、着工後に完了報告書の提出となっていますけど、完了検査はどうしていますか。

事務局

特定空家と判断して、仮に指導等をしていても、行政指導である助言・指導、勧告の段階では補助対象となります。ただし、命令以降の行政処分を受けている場合は、補助対象となりません。これは、国費の補助の基準と同じとなっております。したがって、行政指導の段階では補助対象となりますので、指導を受けた所有者等が、タイミングが合えばこういった事業を利用して自主的

な除却を行うことも考えられます。

次に完了の検査ですが、基本的には個人の除却事業に対する補助ですので、完了報告の中に工事前、工事中、完了写真が必要になりますが、市が完了の検査をすることはいいです。当然、除却事業ですので現地を見れば事業の完了は分かります。完了後に現地で確認はしていますが、完了報告書の提出で完了となります。

B委員

もう一点、質問させてください。11ページの補助対象とする優先順位をどうするかの話ですよね。建物が危ないのはそれぞれ調査しますが、その他の項目については、道路に対して危険ですので、道路管理者の意見を踏まえての順位をつけたらいいと思いますが。いかかでしょうか。

事務局

道路管理者の意見もあろうかと思いますが、あくまでこれは補助対象の順位を決めるものでありまして、補助の対象から外す作業ではないため、事務局としてはこのような順位付けを考えております。

せっきくの意見ですので、道路担当部局にはこのような意見もあつたとの報告や説明はさせていただきます。

B委員

ありがとうございました。こういう危険空家というのは建物が危ないですけど、現実的には前面道路が危ない、一般の通行人が危ないのでそのあたりも考慮していただけたらと思います。

渡辺会長

ありがとうございました。他にご意見はございますか。道路管理者となりますと色々な道路の種類がありますので、私道とそうでない道路との違いもあると思います。そういったことは執行する体制の中で考慮していくことと思いますが、今の時点でどのように考えていますか。

事務局

先ほど言われたように道路、私道でも生活道路として沿道と認められれば補助対象となりますし、緊急輸送道路の多くは国県道もあります。また、今治市道や農道など様々な道路がある中で、当然相談等で道路に対し危険を把握した場合は、それぞれの管理者との連携として報告はしております。今後、この事業においても、道路に対する危険を把握すれば、道路管理者への報告や連携を進めていったらと思います。

渡辺会長

他に意見がないようでございますので、続きまして、老朽危険空家除却事業について変更の提案がありますので、事務局から説明してもらいます。

(説明：約12分)

渡辺会長

まず、一番目の補助金の代理受領制度の導入ということで、これは既に高額医療費等でも似たような制度で運用されております。私も、大病して40万円という医療費の支払いを、本来であれば一括のところを事前に届出書を出しておけば、病院が代理で市役所から振り込んでいただきました。これと似たような制度でございます。

当事者や工事施工者としても、ある面、支払いが確実になるといった安心感もあるでしょうし、この制度を導入することによるプラス要素は大きく、マイナス要素はないのではという気はします。そのあたり皆さんよろしいですか。

C委員

代理受領の制度自体は依存ありませんが、1点お願いしたいのは、工事の施工後に制度を利用するようにしていただきたい。つまり、補助金を工事の途中で前金を払う場合は問題があると思いますので、この例でいうと120万円の工事の場合、先に前金の20万を払うとして補助金の一部を支払うと、自分の懐に入れることも考えられますので、今の制度であれば、事前にいただいていた制度の流れであれば、補助金の申請については交付決定の後に除却工事が終わってからお金が動くことですから問題はないとは思いますが、そこは変えないようにしていただきたいと思います。

渡辺会長

ありがとうございました。確認の意味ですが、運用については気をつけるように、前払いはしないようにとの提案でございました。完了の報告書の提出が終わった後、補助金額を確定するということですので、運用上は大丈夫という感じはします。

事務局

補足ですけど、この制度は工事業者がこの制度を利用して構わないと委任を受けて行うものです。工事業者に対し市からの支払いが1ヶ月程度かかることもありますので、業者がこの委任を受けずに従来の方ですることも可能となっております。心配されていた前金については、申請者と工事業者とのやりとりに関して市は関与できませんが、最終的な市の補助金の支出に関しては、工

事が終わって完了報告書が提出された後になりますので、担当者としては問題がないと考えております。

渡辺会長

内容については15ページの部分です。個人負担の40万円の支払いのところは、個人の支払い部分ですから自由に前金を支払っても構わないという考え方で整理したらよろしいということですね。では、代理受領制度の導入については、よろしいですか。

次の変更案として、調査が実務上、非常に困難となっているようでその辺りについてのご意見を皆さんどうぞ。

D委員さんどうぞでしょう。

D委員

老朽危険な建物は外から見れば、大体分かりますが、ひとつ気になるのは鉄骨造りについては外からでは判断できない部分がある可能性があります。構造体というよりも配管等の設備系統が傷んでいる可能性があるのも、中から壊れるといった意味合いです。木造の場合は外から壊れますが鉄骨の場合は中から傷みが発生する場合がありますので、木造以外の鉄骨については注意する必要があると思います。

渡辺会長

鉄骨については腐食が内部で進むこともあるので外部では分かりにくいことをございますけど、その辺りどうでしょうか。

D委員

鉄骨でも中を木造で造ったりしたものがあります。全てが鉄骨で造っている訳ではないので、いわゆる外よりは中のほうが傷んでいる可能性が木造よりはるという見解です。

渡辺会長

躯体は鉄骨だけど、仕上げの部分に木造のパネルを貼り付けたりしますからなかなか見通せないといいますか、調査する側も困難を極めるような判定だと思いますが、そのようなことを踏まえて実務上事務局としてご意見ありますか。

事務局

事務局としては、当初は木造だけを考えておりました。現在把握している老朽危険空家の347棟のほとんどが木造のため、補助対象は木造で十分ではないかと考えていましたが、今後は軽量鉄骨等の住宅が将来的に老朽化する可能性があるため鉄骨を加えた経緯があります。当然、今の所は老朽危険空家の申

請が出る可能性のある建物は戦前の建物など築年数のかなりの経過した木造住宅であろうと思われませんが、この制度を将来的に継続した場合には鉄骨も必要になるだろうと考えております。木造だけでも十分と思いますが、せっかくの機会ですから、これについて委員さんの意見をいただきたいと思っております。

建築指導課長

先ほどの説明ですが、事務局内でも木造と鉄骨について議論をしております。協議をした中で、今後は軽量鉄骨等の建物が増えてくるだろうと、すぐに朽ちることはないので当面は木造だけ十分と思われませんが、将来的には軽量鉄骨も必要になると考えて、この際に鉄骨を含んではとの意見がございましてこのような提案をさせていただいております。

渡辺会長

17ページにありますように、数としても鉄骨を入れたとしても負担が増えるような状況ではないということでございますし、当初は木造を主体としてとの案に鉄骨を加えるということでございます。問題は下の調査項目は外観目視で把握できる項目とするとありますが、このことについて皆さんの意見が出てくるのではないかと思います、そのあたり、E委員さんどうでしょうか。

E委員

先ほどのD委員さんの意見と同じになりますが、木造については外観でいいと思います。しかし、鉄骨については外観だけでは少し怖い感じはします。

構造は、木造と鉄骨でいいと思いますが調査の仕方については、鉄骨は内部もした方がいいのではないかと思います。

渡辺会長

ありがとうございました。調査項目の外観目視で把握できる項目について事務局からもう少し詳しく説明を付け加えていただければ、ありがたいです。

事務局

追加で参考資料を配布させていただきましたが、これは、国交省における不良住宅の判定基準となっております。この中で、色を塗っているところが外観で把握できる項目となっております。内部の調査の項目については、床の部分の項目、電灯や台所が有るか無いかといった項目です。やはり、この調査で重要なのは、倒壊等の危険に関する部分である「構造の腐朽又は破損の程度」の項目で、これらは外観で調査できる項目ですので、外観目視で把握できる項目に変更したいと考えております。

補助対象とするのは、倒壊等の著しい危険な建物であるとの考え方の中で、外観目視で把握できる項目としております。

渡辺会長

配点といたしますか、この網掛け部分が外観目視により判定できる項目ということですが、配点的にはウェイトとして大雑把にどれくらいの割合を補足しているという感覚になりますか。

事務局

先ほど説明したとおり、内部調査を含めた点数と、外観目視のみの点数の差は10点から20点程度の差となっております。

調査をしてきた中で、外観を見てかなり危険な建物は、点数をつけるまでもなく100点を超えてきます。逆に内部調査をすることによって100点を超えるようなものは、一見しますと危険でないような建物となっております。

近所の方からすると、そこまで危険と感じられない建物に対して、これで補助金がもらえるのかといった感じを受けることになります。やはり、現地で調査をした中で、このぐらい傷んでおるから補助金もしかたないと思える部分は、外観で100点を超える印象を持っております。

国の基準の不良住宅は内部調査を含めて100点を超える建物ですので、基準としては厳しくなりますが、周囲の方がある程度納得できるレベルは外観で100点を超えるものが、2年間調査をした中で感じております。したがって、外観で100点を超える建物への補助については周囲の方からは共感を得られるのではないかと感じております。

渡辺会長

昨年の3月末で皆さんと協議して作成した空家等対策計画においても、適用範囲について当初は木造を主体とすると、ただし、木造以外の建築物であっても一見して危険と判断されるものに該当する場合は特定空家等として判定するとただし書きで既にこのように捉えてはおりますので、当然だと思われませんがD委員さんどうでしょう。

D委員

配点上から見ても外観の項目のウェイトが高いので、おそらく問題はないと思います。

渡辺会長

他にご意見はございますか。

A委員

地震対策ですね、耐震構造などは外観から老朽危険家屋といった判断がなか

なかつかない。こういった場合、相当前からある耐震構造の住宅である場合の老朽化の判断はどのようにするのですか。

事務局

先ほど言われたのは、昭和56年以前の旧耐震基準の建物の話と思います。この老朽危険空家の補助の対象となるのは、基本的には老朽化も激しいことから昭和56年以前の建物と考えております。これらの建物のほとんどは木造の老朽危険空家ということで、築年数のかなり経過した建物と思われま。やはり、外観で見て危険となるものは、建築してからかなり経過した建物が対象と考えております。

また、建築指導課としても、昭和56年以前の旧耐震基準の建物に対しては耐震補助の制度もありますので、それらの利用も考えられます。

あくまで老朽危険空家の自主的な撤去に関する補助ですので、調査に関して耐震基準を含めることは難しいと思います。

渡辺会長

A委員さんが言われている建物はおそらく、ほとんどが現時点での耐震基準を満たしていない建物ではないかと思われま。先ほど説明があったように議論に上がってきているのは、昭和初期や建物によっては大正年代ではないかと推測されま。また、耐震基準等のクリアについては、事務局から説明がありましたように耐震の補助事業も市がしております。この議論の部分は、今回の老朽危険空家への補助の項目としては除外してもいいのではないかという気がしま。よろしいですか。

B委員

失礼しま。判定基準をみせていただきましたが、空家について建築確認の古い書類はありますか。あれば調査も楽になると思いま。

建築指導課長

昭和58年より古いものは市の方には書類が残っていません。

建築確認については基本的には15年しか保存しない中で、建築計画概要書という省略版がありますが、それについても昭和58年からしか残っていませんので、それより古いものは全く残っていないという状況です。

B委員

ありがとうございます。だから建物の状況は分からないということですね。

建築指導課長

そうです。

渡辺会長

そういった資料でもあれば調査もしやすいですが、行政のほうで努力をしていただけたらと思います。

他にございませんでしょうか。

(意見なし)

渡辺会長

ないようですので、以上の事務局の案のとおり決定したいと思います。

渡辺会長

それでは、議題2の特定空家等への措置についてですが、資料を見させていただくと前回の写真より進んでいるのではないかと不安を感じているところです。事務局説明をお願いします。

(説明：約10分)

渡辺会長

今の事務局の説明で質問、ご意見等ございませんでしょうか。

C委員

当たり前のことですが、指導に対する反応はどうでしょうか。結局このまま右から左に流しておけばこのまま終わるのではないかといった危機感がない訳ではないですね、持ち主さんは。最後までしなくて済むのが一番ですが、どんな状態なのですか。指導や勧告の予定については説明で分かりましたが、指導の相手は分かっているのかということです。

事務局

こちらにも指導を2回実施した中で、郵送した文書が届いているかの確認と、内容について説明のため訪問をして、お話をしています。

相手は自分の都合のいいことだけしか話さないもので、話は平行線となっております。こちらとしては建物が危険であるため、きちんと管理する必要があることをずっと伝えていますが。今回は、法律に基づいた指導ですから、今後の措置の流れについても説明をしました。当然のことながら次は勧告があり、勧告を受けたら住宅用地の軽減はなくなります。その次は命令で、命令を受けたら指導と違って実施をしなければなりません。実施しない場合は行政代執行をして、その費用は所有者の負担になりますから、費用の徴収をします。また、支払がない場合は税と同様に差押え等もあるとは伝えてはいますが、持ち主は自分

の都合のいい主張を繰り返すだけで、改善は見られないというのが現状でございます。

こういったデメリットに関する部分も説明をしていますが、相手方は危機感がない感じを受けております。具体的な相手とのやり取りの内容についてはこの場では言えませんが、このような感じを受けております。

建築指導課長

私も指導に行った中で、感じているところを申し上げますと、「自分の建物なので、自分には自分の考えがある。」と言われます。「分かっている。」と言われる中で、取壊について見積などの段取りを早くしてくださいとお願いしても「見積を取るつもりでいるし、業者を考えている。」と言われますが、次に行ったら「体の調子が悪かった。分かっている。自分のことなので自分で段取りをつける。」言われる中で、次に訪ねても全然進んでいないといった状況となっております。

渡辺会長

難しいタイプの人みたいです。暖簾に腕押しと言いますか、話はできるが前に向いて進まないといったタイプの方の様でございます。

F委員さんどうでしょうか。

F委員

相手の人となりが分かりませんが、市役所としても難しいのでしょうか。

G委員

質問になりますが、補助事業の補助金を受ける段階として、勧告の段階ではどうでした。

事務局

命令から補助金の対象とはなりません。勧告を受けた段階では、補助の対象となっております。

G委員

その場合の優先順位は、例えばこの人が勧告を受けたうえで、補助の申請をするとなった場合はどうですか。この空き家が一番緊急性が高い場合に、ただ降って湧いたように新しい建物がでてきた場合に対してどういう順位付けとなるのか。この人が後となって、来年となったとしたら、その順位はどうなりますか。

事務局

建物の状態が非常に危険であり道路も近接していますので、申請があった場合は優先順位の高い建物ですので、補助対象になると思います。

基本的には、補助の募集等のスケジュールもある中で、後から来た場合は補助対象とすることは難しいと思います。ただし、正規の募集の期間に手を上げていただければ、補助対象となる可能性は高いと思います。建物の状態が非常に危険ですので、逆に言えば命令以降になれば補助対象とならないので、翌年度は補助対象とはならない可能性もあります。

G委員

勧告が出た後に、猶予期間が一年もないので、今回申請がなければ命令となるので繰り上げとはならないと。

事務局

先ほど説明したとおり、命令を受けた場合に補助対象となりません。その中で、この建物が勧告で留まっておける建物かどうかと言えば、かなり危険な状態であるので命令以降の措置が必要と考えています。しかし、行政としては担当者だけの判断で命令まで動けませんので、勧告以降のスケジュールについては今の所はつきりとは言えませんが、命令を受けた段階ではいくら補助金が欲しいとなっても補助ができない建物となります。

渡辺会長

写真で見る限り、いつ壊れてもおかしくないような雰囲気の状態を感じますが、事務局も写真を撮る時でも怖いと感じるぐらい、現実的にはかなり危険度が高いと思いますが、勧告に至るまでの期間として、今は指導の段階ですが勧告に至るまでの期間はどのくらいの間隔でしょうか。

事務局

担当レベルで、具体的な時期は言えませんが、早ければ今年度末か年度当初かと思いますが、内部での協議によっては、もう一回助言指導をすることもあると思います。これについては、先ほどの除却補助を含めて、相手と協議を進め、庁内での協議により勧告以降の措置をすることとなります。

渡辺会長

勧告以降の措置となると、テレビ、新聞等にもでてくるような話になるのではないかと思います。それより前に壊れてしまうと、あれほど言っていたのに長い間放置されてと言った意見も出るのではないかと不安に感じることもあります。その辺の時期の捉え方というのは行政としても決断のいることだと思いますが、タイミングを失すると逆の面もある可能性もあると思いますのでタ

イミングを間違えないようよろしくお願いいたしますと思います。
全体的に他に意見はございますか。

B委員

この写真を見た場合に勧告とか悠長なことはできないと思います。前を通る時に危ないです。現にセーフティーコーンを置いて、通行の一部制限をしている訳です。まず、そちらの方を先にして勧告しないといけませんし、スピード感を持って実施しないと空家の委員会は何をしているのかと言われても困ります。一般の往来にもし支障があったらどうされますか。がけ崩れの危険があれば危険であるとの表示をします。同じように危険であることを道路側にすべきだと思います。影響が分かっているのですから、そういうことが大事だと思います。勧告の議論より道路管理者として影響範囲を通行制限するといったことが必要だと思います。

渡辺会長

ありがとうございました。人の命は地球よりも思いといわれた人もいますけど確かに小学生が去年ブロック塀の倒壊で亡くなりましたが、可能性としてないことにはないですから、人の命が失われることになる問題となりますので非常に厳しいとは思いますが、なるべく早く対処するようにお願いしたいと思います。

事務局

事務局といたしましても、所有者による改善が見られない中で、勧告以降の命令、代執行の措置を考えております。特定空家等として指導をしたということは勧告以降の措置に向けて少しずつ階段を上っているところです。しかし、行政代執行となれば、予算措置や工事の発注などがある中で、担当部局だけでなく市全体での判断も必要となりますし、代執行については初めての事例ですので、慎重に進めているところです。やはり担当者としては、特定空家等とした以上は行政代執行を見据えて措置を進めていく予定ですので、ご理解をいただけたらと思います。

渡辺会長

以上で、本日の議事は全て終了したと思いますが、他に言い残したこと全体を通してご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

事務局

議題3のその他ですが、内容としては前回説明しました、愛媛県空き家対策ネットワークと今後の予定です。前回と重複した内容ではありますので、後で目を通していただけたらと思います。

渡辺会長

それでは、個人情報の取り扱いについて事務局から確認していただいたらと思います。

事務局

今回は、議題2の「特定空家等の措置について」で本日配布した資料2があります。これらについては名称等の個人情報は記載しておりませんが、写真等により建物の場所等の特定が可能となる場合がありますので、この資料については、このまま席に残して帰ってくださいますようお願いいたします。

また、特に特定空家等に関する協議内容については、現在は行政指導の段階ですので、個人情報については個人の特定につながらないよう、取り扱いについては十分な配慮をお願いいたします。

渡辺会長

本日も熱心な議論をいただきました。これで、本日の議事を終了いたします。闊達な意見をいただきましてありがとうございました。

午後3時10分 閉 会

議事録署名人